

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

**K** 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2012年3月 No.9

## 今号の内容

### ◇講演会

王敏理事講演会 長崎、福島で開催

### ◇5周年記念 かめのりフォーラム2012

かめのりセッション

基調講演

学生スピーチ

ゲストスピーチ

第5回かめのり賞表彰式

### ◇奨学生のしょうかい

かめのりフォーラム2012 / かめのりセッションの様子



## 講演会 王敏 理事(法政大学教授)講演会 長崎、福島で開催

長崎外国語大学

「21世紀、日中文化交流に於ける長崎の可能性」

長崎には、これまで中国をはじめ他国との交流を通じて取り入れた文化—宗教や食文化—が現在も生き続けており、長崎の特色としてそれらを見つめなおすことで地域の活性化にもつながり、さらには世界に発信可能な要素となり得るとの話がありました。

桜の聖母短期大学(福島県)

「グローバル社会における異文化理解」

王敏理事が来日してから30年、中国との違いを発見し、興味を持って調査した事例を紹介しながら、身近なものに目を向け、好奇心を持ってさまざまな物事を調べていくことが異文化理解には大切であるとのメッセージが伝えられました。

同短期大学生涯学習センター

「宮沢賢治と希望」

昨年の地震と原発事故でさまざまな不安を抱える市民に宮沢賢治の作品から「微笑み」をキーワードに希望となる言葉を贈りました。作品の中での「微笑み」の捉えられ方の話とともに、人間は自然界の一存在として自然と共に生きていくものという賢治の価値観が表れている作品を通じて、「震災で失ったものはわかり知れないが、素朴な原風景に戻った今、改めて足もとにある日本の風土から学ぶべきではないか」という賢治の声が聞こえてくるようだとの話がありました。



長崎外国語大学主催 王敏理事歓迎会



桜の聖母短期大学にて

王敏理事著書贈呈

# かめのりコミュニティ

## 5周年記念 かめのりフォーラム2012

2006年4月の財団設立より日本とアジア・オセアニアとの若い世代の相互理解と交流の促進を目的に事業を進めてまいりました。多くの方々のご協力とご支援のもと、設立5年目を迎えたことを記念して、2012年1月14日(土)に「5周年記念かめのりフォーラム2012」を開催。次なる目標である「グローバル人材の育成」をテーマに講師をお招きし、基調講演やスピーチを行いました。また、第5回かめのり賞表彰式、奨学生体験発表やバイオリンリスト劉薇(Liu Wei)氏の演奏も披露され、関係者や奨学生が一堂に会した本フォーラムは盛会のうちに終了しました。本誌にて、その様子と発表を紹介いたします。

(報告:事務局長 西田 浩子)



来賓 AFS 秋葉理事長(写真左上)、YFU 江夏専務理事(写真左上2つ目)他、かめのりフォーラムの様子

### かめのりセッション

フォーラムの前日1月13日に高校生交換留学、短期交流プログラムの奨学生が全国から集まり、それぞれの留学体験を共有するグループセッションと留学中の「困ったこと」「驚いたこと」などの決められたトピックの発表がありました。そのなかで特に興味深かった「留学先から持って帰りたいもの」のトピックでは、受入生は、柿ピーなどのお菓子、好きな俳優や安全のほか、交通機関やインフラがあり、日本の技術が高く評価されている一方で交通費が高くて困ったとの話もありました。派遣生からは、その国にしかない野菜や果物、顔を補正してくれる写真屋との発表があり、時に笑いがおこり、和やかな雰囲気の中、奨学生同士の仲も深まりました。



かめのりセッションの様子

#### 基調講演

財団法人国際文化会館 理事長 明石 康氏

### 「グローバル人材の育成」



「グローバル人材」とは何かを一言で表現すると「外国人が隣にいて違和感なく仕事ができる人」である。グローバル人材の構成要素は①語学力、コミュニケーション能力、②積極性、チャレンジ精神、協調性、③責任感、使命感、異文化に対する理解力、日本人としての自覚、アイデンティティである。その中で、一番大切なのは積極性、チャレンジ精神、責任感であり、これは国内できちんと働くためにも重要な要素である。また、異文化に接し、自分のルーツを意識することも大切だ。さらに、前述の3つの要素に付け加えたいことは、限らない好奇心と探求心であり、一人ひとりが若々しさを失ってはいけない。語学力の習得に関しては、二者間の交渉が行えるレベルまで達成することが望ましい。日本人の語学学習能力が劣っているとは

思わないが、外国語習得の意欲、関心を促す環境の欠如、語学の学び方に問題があり、話す力と聞く力に重点を置くことが重要と考える。ただ、最も重要な点は話す内容であり、言葉は少し不自由であっても聞かせるだけの気迫があることである。国際的な意見交換や討論に強くなり、意見の違う人の話しを養分に、意見修正し、熟成させていくことがグローバル化のプロセスとなる。日本人の多くは異論を述べるのを憚っているが、むしろ異論を多く述べ可能性を探り、コンセンサスを図ることができるのが真の民主社会になるために大切なのである。また、異文化が「交流」するだけでなく、異文化に対する「尊敬の念」を持つことで自分がより豊かになっていくのではないかと考える。

## 学生スピーチ 「私が考えるグローバル人材」

かめのり財団奨学生、東京大学大学院 徐寧教 (Suh Young-Kyo) は、グローバル人材に必要なこととして勇気と親和力をあげた。親和力はより大切で、その国の文化的な背景を理解しないと溶け込むことはできない。グローバル人材になるためには恐れずその国の文化に飛び込む必要があると発表した。また、かめのり財団主催のさまざまな国際交流プログラムに参加した早稲田大学 天沼典子は、その経験を通して、①言語の壁はなくせる ②他文化を受け入れ、自文

化を伝える ③共に活動を行う難しさ・楽しさ・面白さを学んできた。コミュニケーション能力や心を開くこと、そして他の価値観を尊重し自分の意見もしっかりと述べ、協働できる力が必要と考えている。



## ゲストスピーチ International School of Asia, Karuizawa (ISAK) 代表理事 小林 りん 氏

### 「グローバル人材に必要なものと、今の人材に必要なものは共通している」

アジア・太平洋地域そしてグローバル社会のための新たなフロンティアを創り出し、変革を起せるリーダーを育てることをミッションに少人数制学級の新たな学校をつくる。学校を設立するきっかけは、カナダの全寮制インターナショナルスクールで経験した多様な背景を持つ留学生たちとの高校生活だった。自分の目の前にいる等身大の友人の向こうにある社会格差に触れ、あたりまえだと思っていた自分の生活や状況に感謝するようになった。17歳のとき奨学金を得て留学したことで、教育を通じて将来社会に還元していこうと考えた。ユニセフの職員としてフィリピン駐在中、社会の格差の大きさに愕然とし、貧困層の教育と同様、

新しい価値観を見出していける人材育成に関わっていきたくと思った。これらからいかに必要な人材を育てるか、自らの考え判断することのできる思考力を養成し、リーダーシップ教育は自分で培っていくもの考える。3つの大切なこと ①self-awareness: 自分自身の能力と限界を知る ②Respect for others: チームワークとゴールを達成するためには人との協力が必要 ③Self-discipline: 自分の情熱に人を巻き込む力。そして一生懸命貫く責任感と努力。その他、自らの問題を設定する能力として、デザイン思考や自然の中で心身ともにたくましく育つアウトドア教育が特徴である。昨年3月の震災を機にリーダーシップをとるべき人のグローバルな発信力の欠如やリスク・テイキングの弱さが露見し、決められたルールに乗せるだけではないかと思う親の変化に ISAK への取材が増えた。明日を担う若者へのメッセージとして「悲観主義は気分属し、楽観主義は意志に属する」という言葉を胸に前向きに明るく頑張してほしいと願う。



## 第5回かめのり賞表彰式

2011年度は、次の6団体、1個人の授賞が決定しました。

### 表彰者(敬称略)

#### 特定非営利活動法人 あおもりコリアネット



青森県で民間が主体となって、韓国語教育や文化普及活動をはじめ、通訳ボランティアなど韓国人観光客への支援活動を通じて、草の根で地域の国際交流に大きく貢献。

#### 特定非営利活動法人 アクセス - 共生社会をめざす地球市民の会



フィリピンや日本で、スタディーツアーやフェアトレード事業を通じて、地球市民として貧困のない平和なアジアをつくり上げることを目的とした国際協力に大きく貢献。

#### 一般財団法人 カンボジア地雷撤去キャンペーン



カンボジアで現地の地雷撤去団体とともに、地雷原での学校運営、地雷被害者や病院への医療資金援助、そしてこのサポートのためのラジオ番組の放送活動を通じて、国際協力に大きく貢献。

#### 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター



阪神・淡路大震災の外国人支援を契機に、神戸で外国にルーツを持つ子どもの日本語・教科学習支援、定住外国人の日本語教育活動や介護支援などを通じて、多文化共生社会のために大きく貢献。

#### 特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会



「学校」や「教育」をテーマに、カンボジアを主として、教育の機会を奪われた子どもたちへの教育支援や次世代を担う若者への地球市民教育を実践する活動を通じて、国際協力に大きく貢献。

#### NGO ONE LOVE



フィリピンやネパールを拠点に、学生が主体となり、子どもや同世代の青年たちと経済自立を目的としたコミュニティトレードや児童養護施設の運営資金支援を通じて、国際協力や国際理解教育に大きく貢献。

#### 田島 伸二



「ヒューマン・リテラシー」の概念とともに、長年にわたりアジア地域での貧困層の子どもたちの識字教育や紛争地域での平和絵本の出版などの草の根の活動を通じて、アジア地域の相互理解・協力に大きく貢献。

## 奨学生のしょうかい（高校生）

### 交換留学プログラム（長期）

2011年度は7名の派遣生が奨学生として選ばれ、2011年12月に行われた授与式では、それぞれが留学への思いや目標を発表し、関係者や保護者を交えた懇親会を催しました。常財団西田事務局長からは、「周囲への感謝の気持ちを忘れずに、色々なことに挑戦し、実りある留学生活を送ってほしい」との励ましの言葉を贈りました。

2012年1月から順次出発し、異文化体験の旅をスタートさせています。

#### 派遣生のことば

「マレーシアは多民族国家なので、それぞれの違いを学びたい」

「ハンガルの細かい音の違いや日本語との類似点に興味を持っている」

「中国では教育に力を入れているので、その中で自分もよい成績をおさめたい」

「仏教に興味があるので、タイと日本との違いを勉強し、仏教建築物を訪ねたい」

### 短期交流プログラム

2012年1月に韓国、中国からそれぞれ5名の受入生が来日し、ホストファミリーとの生活や高校生活を通じて、文化や習慣、言葉を学びました。1ヶ月という短い期間でしたが、異文化を知る楽しさを肌で感じ、日本への関心がより深まりました。学校ではたくさんの友だちができて、最後は別れに涙を流しながら、再会を約束して帰国。今後は、この体験を家族や周囲の友だちに伝え、日本との架け橋となるべく活躍することを願います。

#### 受入生のことば

「日本の高校生活で韓国とは異なり、また羨ましく思ったのは、部活動に熱心に取り組むところだった。韓国でも活発になってほしいと感じた」

「第2外国語の韓国語の時間に、みんなに韓国語を教えてあげたのが、民間外交官になったようで誇りに思えた」

「将来、アジアの学生が私のような経験ができるよう手伝いたいという夢ができた」



奨学生に選ばれた派遣生



証書の授与



韓国受入生



中国受入生

（お詫びと訂正）前号 No.8 の「奨学生のしょうかい」派遣生のことば欄の短期派遣生の画像説明に誤りがありました。正しくは、上から「短期派遣生 中国」、「短期派遣生 韓国」となります。お詫びして訂正します。

## 奨学生のことば

体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

日本に留学してから、私には大きな変化がありました。それは、新しいことを恐れずに挑戦するようになったことです。できないからあきらめようではなく、苦手かもしれないけどできるかぎりはやってみようと思うようになりました。今回の留学は私にたくさんのことを教えてくれました。そしてかけがえのない思い出になりました。

2011年韓国から留学 Ms. Hye-Rin Jang

留学して私は色々な面で変わったと感じます。まず、「心に余裕が持てるようになった」こと。そして、「積極的に became」こと。最後に「時間を大切に、人を大切にする」ことです。フィリピンは人と人とのつながりをとても大切にする国で皆が家族のようです。どんな人とも笑顔を交わし合い、助け合うことの大切さを学びました。

2011年よりフィリピンに留学中 大井 彩花

### 今後の予定

- 3月 【長期】 第6期生受入生来日
- 4月 大学院留学アジア奨学生授与式  
国際交流事業助成募集開始
- 5月12日 東北・ユース・グローバル・フェスタ2012
- 6月 第6回かめのり賞募集開始
- 4月～8月 【長期】 第6期生派遣生出発

#### ＜ 編集後記 ＞

かめのりフォーラム終了後、アジアからの高校生奨学生が帰国。震災の影響で、3月下旬の来日が数週間～数ヶ月遅れ、奨学生側も日本で受け入れてくださる側も何らかの形で通常とは異なるプログラムとなりました。別れを惜しみつつ笑顔で帰国した奨学生の姿を見て、すべての皆さまのご尽力に改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。（菊地）

発行人 / 西田 浩子  
編集 / 菊地 佐智子  
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)  
印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/